

月刊 いちえふ。

2016年
1月号



1 FOR ALL JAPAN 事務局

とびくす

ノロウイルス食中毒にご用心

ノロウイルスが流行る季節となりました。インフルエンザ対策と同じく、食事の前とトイレの後は、石けんを使い、しっかり手洗い、外から帰った時は、うがいと手洗いを励行しましょう。

路面凍結にご注意

冬場は雪だけでなく、雨上がりにも路面が凍結する可能性があります。スタッドレスタイヤなどのすべり止めを装備しましょう。歩行時の転倒にも十分注意して、作業をお願いします。

高木毅復興大臣が ご視察されました

12月9日、高木復興大臣が1Fを視察し、「廃炉や汚染水対策は福島復興の大前提です。非常に大事な仕事をしているという誇りをもって取り組んでいただきたい」とごあいさついただきました。

1Fを守る仲間たち 03

温かくおいしいものを食べて 英気を養っていただきたい

しぶや まさとし
渋谷 昌俊さん

福島復興給食センター株式会社
代表取締役社長

たけぐち あきこ
竹口 暁子さん

福島復興給食センター株式会社
主任栄養士

2015年6月1日に営業がはじまった大型休憩所の食堂。その食事をつくっているのが、今回紹介する福島復興給食センター株式会社です。給食センターがあるのは、双葉郡大熊町の大川原地区。ここでつくられた給食が車で30分ほどかけて、1Fに運ばれてきます。今回は、代表取締役社長の渋谷昌俊さんと主任栄養士の竹口暁子さんにお話を伺いました。

—— 給食センターができたいきさを教えてください。

渋谷さん：1Fで働くみなさんに温かい食事を食べていただくことで、職場環境を良くするのが第一の目的です。ただ、1F構内で食事をつくるのはまだ難しく、離れたところに給食センターをつくって運び込むことになりました。そこで、全国で社員食堂や病院の給食をつくっている日本ゼネラルフード株式会社（本社名古屋市）が、センターを運営するための会社を設立することになったのです。現在は、給食セ

竹口さんは、渋谷さんが経営していた給食センターの医療食部門で栄養士として勤務。その経験を買われて、福島復興給食センター株式会社設立に合わせ福島に出向



ンターで45人、1F大型休憩所の食堂で55人、合計100人が働いています。うち福島の方が90人で、残りの10人は日本ゼネラルフードから出向してもらいました。

—— 放射線に対しての不安はありませんでしたか。

渋谷さん：私はまったく心配していませんでした。なにより、廃炉を支える社会的に意義のある仕事ですし、私たちにはノウハウもあります。ためらうことなく「行きます」と返事をしました。

竹口さん：私も名古屋から来ていますが、実家の家族は、「福島に遊びに行けるね」といって喜んでいました。友だちや同僚の中には「大丈夫なの？」と心配していた人も



渋谷さんは、2014年まで、日本ゼネラルフード株式会社の子会社の社長として愛知県で1日に2万食ほどをつくる給食センターを経営。2014年、福島復興給食センター株式会社の設立にあたって代表取締役社長として出向

渋谷さん・竹口さんのお勤め先

福島復興給食センター株式会社

2014年設立。本社は福島県いわき市。1Fで働く人に、温かくおいしい食事を提供することを目的として、日本ゼネラルフード株式会社、東京リビングサービス株式会社、株式会社鳥藤本店の3社の出資によって設立された会社です。大熊町大川原地区にある給食センターでは、2015年末現在、1日に2000食近くをつくっています。最大で1日3000食まで対応できます。



いましたが、そんなことを言ったら、こちらに住んでいる人に失礼だろうというのが本心でした。それでも、汚染土が黒い袋に詰められて積み上げられている様子を初めて見たときには衝撃を受けたのも事実ですが。

毎日の献立や毎月のフェアを考えるのは大変ですが楽しみでもあります

—— お仕事のご苦労はありますか。

竹口さん：私の主な仕事は、献立を考えることと食材の発注です。食材はなるべく福島県産、かつ値段が見合うもので、コメ、野菜、豚肉など、全体の3割になりますね。これ

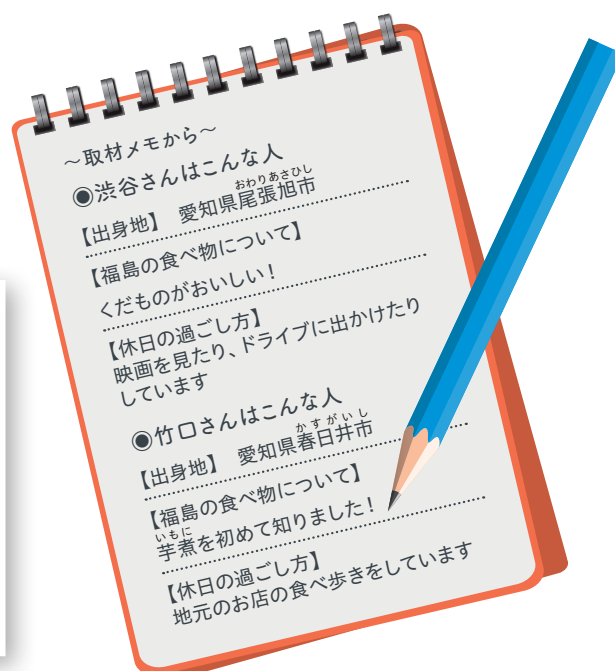
まで私はずっと給食の仕事をしていましたが、国産の豚を使うのは初めてです。値段は高いのですが、甘みが全然違うことに驚きました。

献立を毎日、昼5種類、夕3種類考えますが、内容が重ならないようにしています。また、作業員の方は体を動かす仕事なのでボリュームを多めにしたり、東北の人の好みに合わせて味を変えたり、といった工夫もしています。もちろん、低カロリーのメニューも提供しています。

そして最大の課題は、1カ月間、同じメニューを出さないこと。定食はもちろん、カレーも30種類以上用意しています。大変なように見えますが、地元の納品業者さんや地元の栄養士の仲間がいろいろと教えてくれるのがありがたいですね。おいしいものを食べてもらうために悩むのですから、正直言って楽しい毎日です。ラーメンフェア、秋祭りなどのメニューフェアを考えるのも楽しい時間です。



給食センターの前で全員そろっての記念写真(上)、1Fの食堂では毎月楽しいフェアが開かれています(右)



いちえふのいま

アンケート調査結果をもとに、労働環境の改善と充実に努めます

労働環境についてのアンケートへのご協力ありがとうございました。およそ9割のみなさまにご回答いただきました。「大型休憩所や食堂の運用開始」「現場の線量率とその場でわかる線量率モニターの設置」などには、8割以上のみなさまに高い評価をいただきました。

「構外駐車場の少なさ」「休憩所の狭さ」について
対応を予定しています

※今年2月までに駐車場を約200台分増やします

※構外に約1000名が入れる仮設の休憩所を新しく設置する予定です

「作業後にシャワーを浴びたい」というご要望に対応します

※今年4月の完成を目指して、大型休憩所3階にシャワーを設置します

被ばくへの不安をさらに軽減いたします

※「線量率モニター」を、現在の20台から70台に増やす予定です

1F構内では、使用済みの保護衣などが大量に保管されていますが、これを安全に焼却する施設「雑固体廃棄物焼却設備」が完成しました。11月25日から試験がはじまり、今年度中に実際の運用がはじまる予定です。

1号機建屋について

順調にカバーの解体工事が進んでいます。11月9日には、鉄骨などを取り除くときにほこりなどが飛び散るのを防ぐため、事前飛散防止剤をまきました。11月19日にはコンクリートのかけらなどの小さながれきを吸引しています。

2号機について

原子炉建屋については、2号機建屋の解体方針が決まりました。2号機建屋は水素爆発が起きなかったために、オペレーティングフロア上部がそのまま残っています。そのため、燃料を取り出すには、その一部だけを解体すればよいか、全体を解体すべきかなどで検討が続いておりました。そして、どうすれば安全に作業を進められるか、まわりへの影響は少ないか、作業員さんたちへの被ばくは少ないかなどを考えた結果、オペレーティングフロア全体を解体することに決定しました。実際の解体工事は、今年度末からはじまる予定です。

3号機について

3号機では、燃料取り出しに向けて、残されたがれきを取り除く作業が11月21日に終わりました。建屋の線量を抑える方法については、10月20日～21日にスペクトル測定をした結果、今後は除染よりも遮へいに重点を置いて作業を進めることになりました。それと並行して、遠隔操作による燃料取り出しの訓練を行っています。また、11月26日～27日には、スマートフォンを使用した小型ロボットを用いて、原子炉格納容器機器のハッチを調査して、変形や漏れがないかを確認しました。



小型調査装置（ロボット）

📖 コラム

福島の冬の味覚

「いかにんじん」

新年を迎え、皆さまは「いかにんじん」を召し上がりましたか？「いかにんじん」は、福島の正月料理には欠かせない一品として、長く愛されています。にんじんのぱりぱりとした歯ごたえと、するめいかのうま味が相まって、何ともいえない美味しさが口いっぱいに広がります。この「いかにんじん」が食卓に上がると、「正月が近いと、子ど

もごころにもわくわくした」と懐かしむ福島の方が多くいらっしゃいます。

起源は江戸時代後期とも言われ、たんぱく質が不足しがちな冬の栄養補給として、また冷蔵庫がなかったころの保存食として、どの家庭でも独自の味付けをして、広まったそうです。また、いかにんじんの職人が北海道に移り住んだことから、北海道の松前漬が生まれたとも言われています。

作り方：ニンジンとするめいかを千切りにし、ニンジンは塩もみし、するめいかは30分ほど酒に浸します。それをだし汁、しょう油、みりん、砂糖

とともに一晚漬けてこんで、出来上がりです。福島出身の方も、また県外からいらしている方も、手作りにてはいかがでしょうか。もちろん、食品スーパーでも買えますし、居酒屋メニューとしても定番です。



写真提供：福島市農産振興課様



〈絵合わせ〉

毎号、ちょっと息抜きができるお楽しみを掲載していきます。今月は絵合わせです。それぞれの絵に載っているのは、福島第一原子力発電所長の小野さん（左）と廃炉推進カンパニー・プレジデントの増田さん（右）です。6つの絵の中には同じ絵が2つだけあります。お分かりになりますか？



応募方法・プレゼントのお受け取り方法

正解した方には抽選で5名様にプレゼントをさしあげます。

「ヴィレッジ受付に設置してある応募箱に
必要事項をご記入のうえ、ご応募ください。」

応募箱設置期間 1月9日～1月22日まで

※応募用紙は応募箱横に設置しています。
※当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。

今号のプレゼント

1F構内の食堂で使える
プリペイドカード1000
円分（保証金500円分
含む）です。500円分
のお食事ができ、チャージ
（入金）をすれば引き続きご使用いただくことができます。
協賛：東京日本橋西口ターリークラブ様



ウェブサイトのご紹介

福島第一原子力発電所の廃炉作業を進める
作業員のみなさまに、働く仲間や応援者の
メッセージを伝えたいという思いで2015年
10月に開設した「1 FOR ALL JAPAN」です。
ウェブサイトでも本誌でも、いちえふで働く作
業員のみなさまを応援していきます。



<http://1f-all.jp/>

月刊いちえふ。
2016年1月号

【発行日】2016年1月10日

【発行】

1 FOR ALL JAPAN 事務局
（東京電力SC室）

【お問い合わせメールアドレス】
info@1f-all.jp